

緩和医療専門医を目指す

S.H 先生

総合内科勤務開始時の学年
： 卒後 3 年目

研修期間

： 2 年（基幹病院：高槻病院）

Specialist を目標とする私が専門研修に入った今、高槻病院にお世話になり良かったなと感じています。

皆さんは自分が患者の診療を行うときに、何を根拠にしていますか。処方一つ、処置一つ、検査項目一つ、それらをなぜ、どのタイミングで、どの程度行い、どう評価するかといったことをどのように決定しているでしょうか。

高槻病院の総合内科では、所属する医師・NP 全てが、自分のやり方や上級医がこういうから、とか、この病院のやり方がこうだから、といった不確かなものを根拠にせず、論文や成書を元に世界的な evidence をきちんと集め、それを評価し、且つ自分達の症例に照らし合わせることで、全ての診療を取捨選択し進めています。それらは「患者にとって安全で確実、そして最良の outcome を出すためにどうすればよいか」という共通の志を全員で共有し患者の治療や decision-making を行おうとしているためです。

文章にすると至極当たり前のことに思えますが、全ての研修施設、全ての科、全ての医師がそのような共通認識の元、日々の診療を行えているかといえそうでない場合も多くあると思います。

自分が患者のことを考え、調べ、この方法がよいのではないかと思っても、同じ志をもってその方針をディスカッションできる環境にいないければ、実際日々の診療を納得しながら行えない場面に遭遇することもあるのではないのでしょうか。

この先生はこの処方が嫌いだから、とか、この先生が当番の時はこの処置はできないな、などという「環境因子」が自分の診療を決める一つになってくると、「果たしてそれは正しいのだろうか」「患者のために Best な選択肢なのだろうか」「自分はこう思うが、正しいかどうかディスカッションできる相手がない」と悩むと思います。それらは自分の成長を妨げる大きな要因になるでしょうし、「どの施設でもどの環境でも通用する医師になるための研修」からは離れてしまうかもしれません。

高槻病院総合内科ではいつも開かれたクリアな診療、上下関係に関わらないフラットで活発なディスカッションが日々行われていました。印象的だったのは部長やアテンディングといった私から見ると百戦錬磨！といった上級医の先生達が、日常の症例から Clinical question を積極的に見つけ、共に調べ勉強する環境があったことです。卒後 10~20 年目の先生方が「知らなかったよ、勉強になったなあ！次の症例に活かしてみよう。」と話す姿は、何年たっても自分もそうありたいと思う存在でした。

「診療の全ては患者のために、全力を尽くせる医師になる」という当たり前で最も大事な目標を科内で全員が共有しているからこそ、平日夜間、土日に関わらず完全チーム制の診療体

制のシステムが成り立っており、365 日患者にとって最良の医療を提供しながらも休みをしっかりとる医師のライフワークバランスを保つことができていると思います。また上記の目標があるからこそ、毎朝行われる様々な内容のカンファレンスや学会発表、論文作成、臨床研究なども全員が自発的に取り組み、且つ結果を出すことができているのではないかと感じています。

上記のような環境で研修できたことは、自分の医師としての考え方の基礎を作るために大変重要な時間でした。Generalist でも Specialist でも、内科医でもそうでなくても、医師の基本は共通していると思います。高槻病院総合内科で、日々の診療全てを「自分で調べ、考え、判断し、周囲の医師とディスカッションし、決定し、診療をすすめる」という過程を繰り返し行うことで、臨床研修の目標である「どこに行っても自信を持って最良の医療を提供できる柔軟な医師」に近づくことができると確信しています。